

目次

目次 -----	2	「人」クローズアップ!6	
【巻頭詩】		坂爪 三津さん -----	26
グランマーマレード・マジカル・		風流 京愛の俳句コーナー -----	29
ビレッジの住人たち		ブロップ・トピックス -----	30
あしなが族の歌 -----	2	快調!98セミナー!! -----	34
今、障害者雇用に取り組む企業 その2		アクセシビリティ関連機器Ⅲ -----	41
第三セクター・		PROP PRESS -----	42
重度障害者多数雇用事業所		我羅門のネットワーク通信よもやま話	
交野松下株式会社 -----	3	Vol.1 No.2 -----	44
身体障害者及び精神薄弱者の		〈この本は絶対読んで!6〉	
雇用状況について -----	9	「ing・・・見えない頂上に向かって」	
障害者の就業に関する意識調査 -----	10	-----	46
内山幸久氏 訪問記 -----	16	チームメイト お便りコーナー -----	48
作業所訪問「ワープロハウス」 -----	24	お知らせ -----	49

【巻頭詩】

グランマーマレード・マジカル・ビレッジの住人たち
あしなが族の歌

ねえ ねえ あしなが族さん、
雲の上には なにがあるの？
私に そっと おしえてよ。
いったい どんな すばらしいものが
空の上に あるのかを・・・。
そんなに 毎日 空ばかり 見あげていたんじゃあ
あなたの 足もとで あなたのことを思っている、
こんな ちっぽけな 私なんて
けっして 見ることは できないでしょうね。
私は 知っているのよ。
本当に 大切なものは、そんな 手がとどかないほど
高いところには ないってことを。
あなたの心の やさしさと 弱さを 一番よく知っているのは この私。
そして あなたの 大好きなものが
「空にあこがれマーマレード」だってこともね。

作者：鈴木純子（本名：金内純子）

神戸市生まれ。京都市立芸術大学西洋画科を卒業後、絵本に興味を持ち、講談社絵本新人賞、小学館童画新人大賞などに応募し、入選を重ねる。1985年第1回大阪国際児童文学館ニッサン童話と絵本のグランプリで絵本優秀賞を受賞、1989年『サンタクロースのさいごのプレゼント』が第5回の同グランプリで絵本大賞を獲得した。

現在は絵本及び雑誌のイラスト、キャラクター制作などの仕事をしている。

住所：大阪府枚方市上島町6-1-603

今、障害者雇用に取り組む企業

その2

第三セクター・重度障害者多数雇用事業所

交野松下株式会社



お話
代表取締役工場長
村岡 正次 さん

聞き手
プロップ・ステーション代表
竹中 ナミ

交野松下株式会社の工場は、大阪府交野（かたの）市の山と田畑に囲まれた静かな一角に位置する「障害者ワーキングエリア」（精薄授産所、重度身障授産所を含む）の中にあります。今回お話を伺った村岡正次さんは、松下電器本社から取締役工場長として出向されて7年目。

「サラリーマンですから人事異動は止むを得ませんが、自分自身の気持ちとしては、ここに骨を埋めたいと思っています」と、身を乗り出して熱っぽくお話して下さいました。



〈作業風景〉

竹中 お忙しいところお邪魔いたします。
まず、交野松下の発足経過を教えてくださいませんか。

村岡氏 10年前の国際障害者年を契機に、障害者のための職場として発足しました。働く意欲と能力があるにもかかわらず、適職に従事する機会に恵まれない障害を持つ人々に職場を確保し、安定した雇用を促進することが急務であるとの考えから、大阪府44%、交野市5%、松下電器産業株式会社51%の出資割合で第三セクターとして設立されました。

障害者の自立と社会参加をより確かなものにする、というのが設立の理念です。重度障害者15名でスタートし、転職・結婚などで退職された5名を除く10名が現在まで勤務しております。毎年2~3名の新規採用を行い、今は40名の障害者が働いています。あ、そのうちの一人は今日入社なんですよ。(^^)

先ず、我が社の紹介ビデオをご覧ください。

ということで、工場見学の前に15分間の「交野松下紹介ビデオ」を拝見しました。

設立に関わられた行政労働部局の方々や、取締役の名を連ねる交野市長、親会社である松下電器産業株式会社社長のコメントやご挨拶に続き、生き生きと働く職場の皆さんの笑顔がいっぱいのビデオ。村岡工場長も、その温厚な表情と体躯で度々の登場。

世間でいう「プロモーションビデオ」とは一味違う雰囲気・・・

竹 中 失礼ながら、プロの企画屋さんの作られたものではないような気がします・・・

村岡氏 その通りです。これは交野松下10周年記念ということで、本社の広報担当者が制作したものです。

ここで働く障害者の本当の姿を撮るためには、共に生活した上でないと無理、という私の考えから、担当者が現場にどっぶりつかって約1年かけて制作しました。

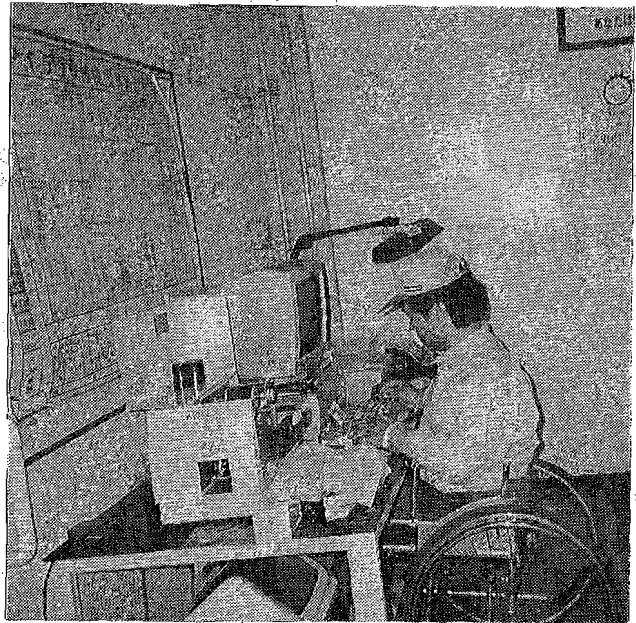
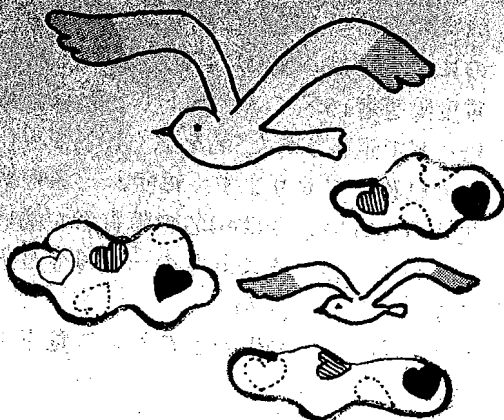
竹 中 交野松下の業務内容は、主にマイクロカセットテープの製造と音響機器の組み立て、名刺の作成となっていますが、戴いたお名刺に似顔絵が入っていますね。

村岡氏 この工場は油絵の大変得意な社員が居りまして、個展なども開いたことがあるのですが、彼が似顔絵を含む名刺作成の全工程を担当しています。

スポーツに堪能な社員もいます。彼は身障者団体（山形）で水泳とソフトボールの銀メダルを獲得しました。

竹 中 仕事だけでなく、趣味やスポーツにも打ち込んでおられるというのは素晴らしいことですね。

採用に際しては、どんな点を重要視されるのでしょうか。



〈似顔絵からレイアウトまで、名刺づくりはまかせて!〉

村岡氏 まず「やる気」ですね。自分に今残された能力を社会的に生かすんだ、という気持ちを持った人を選びます。

自分の障害に対し被害者意識を持っていない人、つまり「親が悪い」「社会が悪い」「自分が障害を持っていること自身が悪い」といった発想をしない人。

また「もし今、自分が歩けていたら〇〇ができるのに・・・」という風に、過去を振り返る事をしない人。

残存能力を100%発揮し、明るいい心の通い合う職場を共につくる、というのが社員の皆さんに持って戴きたい目標です。

竹 中 でも実際の社会では、障害者が自分の能力を発揮できるチャンスがあまりないのが現状のように思いますが。

村岡氏 世間では障害者に対し「能力が劣る」「効率が落ちる」と考えており、実は私もここへ来るまでそのように考えていた一人でした。

しかし、彼らと共に7年間仕事をしてきて、そういう気持ちはすっかり消えました。きっちりしたサポートさえ有れば彼らは負けない、と思っています。

竹 中 通勤のための広い駐車スペース、広々とした玄関周りや廊下、全く段差のない入り口など、たしかに車いすで働く方々にとって大変考慮された構造ですね。

村岡氏 そういった物理的サポート以上に大切なのが、人間関係におけるサポートだと思います。お互い職場にいる時間が長いので、どれだけ職場の風通しを良くするかまた、明るい人間関係を作るか・・・それが重要な課題です。

とはいうものの、全員のひとと本音で話し合えるようになるのに、4~5年はかかりましたが。(^^)

竹 中 その4~5年の間に、村岡さんご自身も変わられた、ということですね。

村岡氏 ある夏の忙しい時期に、自分の娘（高校生）や課長の息子なんかにはバイト応援を頼んだ事がありましたが、バイトを終えて彼らが言うには、「障害がある人が一人前の仕事なんかできるわけない、と心の底では思ってた。恐いという気持ちもあった。でも仕事を教えてもらっているうちに、それが偏見やと分かった。」

私自身が変わっていったのも、障害を持つ社員が仕事を通して社会人としての自覚が高まっていく過程を見てきたからだと思います。

竹 中 まず出会って、共に過ごしてみなければ偏見は無くならない、という事ですね。

村岡氏 この土地に「障害者ワーキングエリア」を設置することに、決して地域の賛成があったわけじゃない。初めは反対する人のほうが多かったと聞いています。

差別や偏見を取り除くには交流しかない・・・と感じていましたので、私が赴任してから「障害者ワーキングエリア祭」というのを地域に開放して毎年開催しています。今では、地域の方が1万人位参加して下さるお祭になっています。

偏見といえば、私自身もやむをえず使いますが、どうも「障害」という言葉自体が良くないですね。

竹 中 同感です。

ところで、上司として仕事以外のご相談なども受けられると思いますが・・・

村岡氏 生活相談員という制度があり4名の相談員がいますが、私も講習を受けてその一人になっています。本社でもやっているのですが、誕生日プレゼントとして毎年記念スプーンを贈ります。ここでは「誕生日面接」という事で、一人一人の社員といろんな話をします。

特に中途障害でなく生まれつきの障害を持った人は、様々な厳しい体験をされているのを感じます。偏見もそういう人に対して特に強いように思います。

竹 中 そういったことで、何か具体的にご相談を受けられた事がありますか。

村岡氏 社内結婚が二組あったのですが、一組は中途障害の方同士で結婚で、親戚や友人、知人が集まって盛大な式、披露宴が行われました。

でも、もう一組は生まれた時からの障害の方同士で、ごく近い身内にしか障害があることを知らせていない・・・というような状況で、両親は結婚を承諾しただけ披露宴はできない、という事でした。それを聞いた時「偏見」という言葉の意味を痛感しました。日本的な因果応報観がどれだけおかしいか、という事を。



私はどうしても二人を皆で祝福したいと思い、食堂をパーティー会場にしつらえ、フルコースの食事、ケーキカット、キャンドルサービスの披露宴をここで開催しました。これが、その時の写真ですが……。

竹中 素敵なウェディングドレス！花婿さんも、タキシードがばっちり決まっていますね。本格的な披露宴という感じですが、会費制とかでされたのですか？

村岡氏 いえ、これは会社の経費でやりました。花婿・花嫁の衣装はそれぞれ知人などから借りたそうですよ。

でも、ほんとに「決まってる」でしょ。この体験を通して、よく健常者同士気軽に未婚の知人をつかまえて「はよ結婚せーよ」なんて言いますが、それが冗談で言えない場合があるのだと知りました。障害によっては、男性機能を失った方もおられますしね……。

そんな訳で、冗談も言える、本音も話せるという関係になる事、日常的にそんな雰囲気社内できているかが重要だと思います。

相談員体制だけ整えても駄目ですよ。

福祉施設の職員さんならいざ知らず、企業の、しかも取締役工場長という肩書の方の口から聞くことはよもやあるまい、と思っていた言葉がポンポン飛び出して、自分の「肩書への偏見」(^^;)を感じてしまったナミねえでした。



〈昼休み。おしゃべりの花が咲く〉

そして、その後の工場見学……

「工場ライン」につきものの非人間的な「機械が主役」という感じの全くしない、明るくゆったりした作業スペースに心が和みます。

重度障害といっても上肢は健常人ばかりでは……と思っていましたが、片手は指先が全く使えず、手首で部品を押えながら作業するという方もおられ、言語障害のかなりある方、また知的ハンディとの重複障害の方もおられました。

社員59名のうち、40名が車いす使用者だそうです。

村岡さんは、ワーキングエリア内の重度身障授産棟からこちらへ通い始めた人から「寮もあり、食事も完璧で十分に保護されるという恵まれた環境に居たのに、なんとなく遠慮のような気持ちが拭えなかった。工場に通うようになって、賃金を貰い、税金を納める側になって、自分が～してもらう立場でなく、～する側になった事を知り、社会に自分の存在が認められるという喜びを感じた」という話を聞いた時、目から鱗が落ちる思いがしたそうです。

工場見学が終ると、ちょうどお昼休み。

玄関前のロータリーに三々五々集まって、おしゃべりに興じる社員の皆さんの輪に入らせて戴きました。

膝を痛めて1ヶ月の療養休暇をとっている社員さんが「忘れられてんのちゃうかと思て」と冗談を言いながら「挨拶に来ましてん」とのこと。交野松下発足から勤務されてる方とのことでしたが、

なんとまあ愉快なおじさん（失礼！）で、ロータリーは爆笑の渦。「家で、車いすから落ちて膝打ちましてなー、えらいドジですわ」「取材でっか？ここだけの話やけど、美人社員が少ない思いまへんか」と声を落して言うと、今日入社したばかりのA君が思わずうなづいたりして……(^^)

村岡さんもおしゃべりの輪に入って、賑やかな昼休みはアツという間に終わりました。

竹 中 本本当に和やかな昼休みで、愉しく過ごさせて戴きました。
最後に、村岡さんご自身の経歴と言いますか、ここに「骨を埋めたい」とまで言われるお気持ち、どのように培われたのかという事を教えて戴けますか。

村岡氏 実、本社で長年労組の役員をしていたのです。エリートばかりでなく、下積みの人にスポットの当たる職場であって欲しいと、いつも思っていました。そんな時、アジアの貧しい国では飲料水さえ満足に手に入らないのだけれど、百万円あれば井戸が掘れ、その井戸掘りの事業で2年間位労働の場ができ、掘った井戸からは何十年も飲料水が採取できる、という事を知りました。

早速、社内募金を募ったり、実際に井戸掘り現場に参加したり・・・という活動をしたのですが、交野松下への配属はそのような私の経歴が関係しているかもしれません。

でも、障害者に対しては始めは「世間と同じ偏見」を持っていたのですよ。

そして障害を持つ社員も「自分達は働かされる人」、私は「働かせる人」という意識を持っていました。

でも、ここは障害者のために造られた職場ですのでね、「君らが主役や」「君らは働かされるんやなくて、君ら自身の職場を自分で造り上げていくんや」と、言い続けて来ました。

また、本社から出向して来る健常の社員には「本社では仕事ができたら一人前やけど、ここでは障害持つ社員と本音の関係になるまで、半人前やで」と言うてます。自分にも同じ事を言い続けて今日まで来ました。

共生とかノーマライゼーションとか口で言うんやなく、できない事は、できる人が自然な形で応援する関係が良いなと、思っています。

竹 中 本日は、本当にありがとうございました。

交野松下株式会社のますますのご発展を、心よりお祈りいたします。

建物や職場環境のハード面の充実も勿論大切な事だけど、ソフトはもっと大事。「企業は人」という言葉を改めて痛感させられました。

「10年前には、障害者のために整備された器など殆ど無く、第三セクターとしてハードを整えるのがベストの選択だったのです」と村岡氏。

これからは「人に優しい街づくり」の時代です。多くの企業で障害を持つ人と持たない人が共に働けるよう、たくさんの方がご理解とご支援を下さる事、それがソフトの充実であると思います。

障害を持つ人が職業を選ぶ時、様々な選択肢から選べるような、そんな時代が一日も早く訪れて欲しいと思います。

交野松下株式会社

所在地	大阪府交野市寺4丁目580-1 TEL 0720-93-2600 (代)
資本金	50,000,000円
規模	建物 1,173.75m ²
事業内容	マイクロカセットテープの生産、その他音響機器の組立
設立	昭和56年10月30日 大阪府・交野市・松下電器産業株式会社による、重度障害者多数雇用事業所(第三セクター方式)として設立される。



〈広々、段差のない玄関口〉

資料

交野松下株式会社

身体障害者雇用状況

(平成5年3月29日現在)

性別	男子	女子	合計
	30	9	39

年齢別

区分	男子	女子	計
18～20才	1	0	1
21～25才	5	4	9
26～30才	7	2	9
31～35才	4	2	6
36～40才	2	0	2
41～45才	5	0	5
46～50才	3	1	4
51才以上	3	0	3
平均	35.3	29.0	33.8

(才)

障害等級別

区分	男子	女子	計
1級	18	4	22
2級	10	5	15
3・4級	2	0	2

補装具使用状況

種類	男子	女子	計
杖	9	3	12
装具	6	2	8
車椅子	28	9	37
義肢	2	0	2

*一人で複数の補装具を着用するため重複計上されている

障害病因別

病因	男子	女子	計
脊髄損傷	(9)14	(2)2	(11)16
脳性麻痺	6	4	10
二分脊椎	2	1	3
脊髄炎	2	0	2
小児麻痺	1	1	2
骨形成不全	2	1	3
その他の疾病	(1)3	0	(1)3

* () 内の数は交通事故災害によるものである

通勤状況

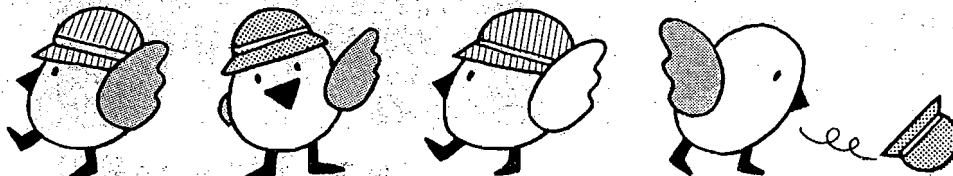
区分	男子	女子	計
現住所	18	4	22
交野寮	12	5	17

*交野寮…(社会福祉法人)大阪府肢体不自由者協会の運営で、障害者ワーキングエリア内にある

自動車運転免許取得状況

免許	男子	女子	計
取得	27	3	30
未取得	3	6	9

(単位：人)



労働省資料

身体障害者及び精神薄弱者の雇用状況について

労働省発表 平成4年10月

今回取りまとめた身体障害者及び精神薄弱者（以下「障害者」という。）の雇用状況は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」により、1人以上の身体障害者を雇用する義務のある事業主等から、本年（平成4年）6月1日現在における障害者の雇用状況の報告を求め、これを集計したものである。

1 一般の民間企業における産業別障害者の雇用状況

産業	① 企業数	② 常用労働者数	障害者の数			③ 実雇用率 C÷②×100	④ 雇用率未達成 企業の割合
			A.重度身体 障害者	B.重度身体 障害者以外	C. 計 A×2+B		
	企業	人	人	人	人	%	%
農、林、漁業	96	17,867	34	167	235	1.32	40.6
					231	1.30	38.7
鉱業	63	17,187	54	181	289	1.68	33.3
					271	1.61	34.5
建設業	1,886	628,814	1,580	4,386	7,546	1.20	45.2
					6,846	1.16	46.3
製造業	21,366	7,324,579	25,155	68,241	118,551	1.62	33.8
					113,057	1.58	34.5
電気・ガス・ 熱供給・水道業	121	187,149	534	1,498	2,566	1.37	59.5
					2,293	1.25	64.9
運輸・通信業	2,895	1,105,903	2,856	10,141	15,853	1.43	40.9
					14,973	1.38	42.0
卸売・小売業、 飲食店	11,619	3,244,965	5,970	16,428	28,368	0.87	67.3
					25,407	0.82	67.8
金融・保険・ 不動産業	2,148	1,540,852	3,709	9,764	17,182	1.12	74.3
					15,697	1.03	74.3
サービス業	12,690	2,801,946	8,216	22,605	39,037	1.39	52.3
					36,039	1.40	51.4
産業計	52,884	16,869,262	48,108	133,411	229,627	1.36	48.1
					214,814	1.32	48.2

↑資料出所 労働省職業安定局集計

注1 常用労働者数とは、常用労働者総数から除外率相当数を除いた法定雇用身体障害者数の算定の基礎となる労働者数である。

2 障害者数とは、身体障害者と精神薄弱者の計である。重度身体障害者については法律上、1人を2人に相当するものとしており、ダブルカウントを行っている。

3 下段の数値は平成3年6月1日現在の数値である。

2 民間企業における障害者数及び実雇用率の推移（各年6月1日現在）

区分	年	障害者数 (人)		実雇用率 (%)	
		前年比増減		前年比増減	
一般の民間企業	昭和52年	128,429		1.09	
	57	152,603	7,890	1.22	0.04
	62	171,880	1,633	1.25	△0.01
	63	(177,708)	(5,828)	(1.25)	(0.00)
民間企業	平成元年	187,115	15,235	1.31	0.06
	2	195,276	8,161	1.32	0.01
	3	203,634	8,358	1.32	0.00
	4	214,814	11,180	1.32	0.00
		229,627	14,813	1.36	0.04

←注1 障害者数とは、身体障害者と精神薄弱者の計であり、重度身体障害者については、ダブルカウントしてある。ただし、昭和62年以前は、身体障害者のみである。
2 昭和63年の()内は、身体障害者のみの数値である。